第 66 回

大阪市都市景観委員会

議 事 録

日 時	令和 5 年 8 月 1 0 日 (木)
	午後 3 時 0 0 分
場 所	大阪市役所 P 1 階 共通会議室

大阪市都市景観委員会（第66回）

1. 開催日時 令和5年8月10日（木）午後3時00分～4時35分

2. 開催場所 大阪市役所 P1階 共通会議室

3. 出席者

(1) 委員（敬称略）

委員長	嘉	名	光	市
委員長代理	加	我	宏	之
委員	麻	生	美	希
	岡	井	有	佳
	小	谷	真	理
	清	水	陽	子
	中	嶋	節	子
	福	田	知	弘
	福	原	和	則
	堀	田	祐	三子
	松	島	格	也

(2) 府側 馬場 都市整備部住宅建築局建築環境課長

(3) 市側 片岡 都市整備局企画部長
山村 建設局総務部管理課長
平野 建設局企画部長
一ツ町 建設局都心活性化担当部長
澤 建設局公園緑化部緑化課長
吉田 大阪港湾局開発調整担当部長
西江 計画調整局開発調整部長
事務局（計画調整局） 寺本 計画調整局長
花澤 理事
荒木 計画部長
齋藤 都市景観担当課長
相本 都市景観担当課長代理

伊	東	デザイン施策担当課長代理
高	橋	都市計画課（都市景観）担当係長
遠	藤	都市計画課（都市景観）担当係長
古	家	都市計画課（都市景観）担当係長
上	久保	都市計画課（都市景観）担当係長
大	西	都市計画課（都市景観）担当係員

4. 会議次第

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1) 御堂筋の景観誘導について
 - (2) その他
- 3 閉 会

[配付資料]

議題（1）御堂筋の景観誘導について

- 資料1-1 御堂筋の景観誘導について（景観計画及び関連するガイドラインの変更等について）【概要】
 - 資料1-2 大阪市景観計画変更（素案）
 - 資料1-3 御堂筋道路空間再編整備ガイドライン（みちガイドライン）（素案）
 - 資料1-4 今後の進め方
 - 参考資料1-1 御堂筋デザインガイドライン〈まちなみ創造ガイドライン〉の変更内容【概要】
 - 参考資料1-2 御堂筋デザインガイドライン（御堂筋本町北地区）変更（素案）
 - 参考資料1-3 御堂筋デザインガイドライン（御堂筋本町南地区）変更（素案）
 - 参考資料1-4 なんば駅前広場について
- 議題（2）その他
- 資料2 各部会の開催状況及び今後の委員会、部会の予定

5. 議事の概要

○事務局（相本）

定刻となりましたので、ただいまから第66回大阪市都市景観委員会を開催させていただきます。

本日の進行を務めさせていただきます大阪市計画調整局計画部都市景観担当課長代理の相本でございます。よろしくお願いいたします。

本日の都市景観委員会には、委員11名全員の出席をいただいておりますので、大阪市都市景観委員会運営要綱第2条第3項の規定により、本委員会が有効に成立していることをご報告させていただきます。

なお、岡井委員におかれましては、要綱の規定に基づきまして、事前に委員長の承諾をいただいておりますので、ウェブ会議の方法で本委員会にご参加いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。ウェブ会議でのご参加に当たりまして、マイクは基本的にオフにさせていただき、ご発言をされる際のみオンにさせていただきますようよろしくお願いいたします。ご発言の際は、手を挙げていただきますと、事務局から委員長へお伝えいたします。委員長の許可を得た後、マイクをオンにいただきまして、ご氏名から発言いただきますようお願いいたします。

本委員会につきましては、大阪市都市景観委員会運営要綱第2条第1項の規定によりまして、公開にて開催をさせていただきます。本日は、傍聴、報道ともご参加はございませんことを報告させていただきます。

それでは、議事に入ります前に、配付資料の確認をお願いいたします。資料の一番上が議事次第、委員名簿、配席図をとじたものでございます。以降、議題ごとに資料を置かせていただいております。まず、議題（1）御堂筋の景観誘導についての資料でございます。資料1-1「御堂筋の景観誘導について（景観計画及び関連するガイドラインの変更等について）【概要】」、これがA3横の1枚ものです。続きまして、「大阪市景観計画変更（素案）」が資料1-2となります。A4縦の冊子になります。次に、「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン（みちガイドライン）（素案）」が資料1-3となります。A4横の冊子でございます。次に、「今後の進め方」が資料1-4になります。A4横の1枚ものです。続きまして、参考資料としまして、参考資料1-1「御堂筋デザインガイドライン〈まちなみ創造ガイドライン〉の変更内容【概要】」、A3の横1枚のものです。参考資料1-2としまして「御堂筋デザインガイドライン（御堂筋本町北地

区) 変更(素案)」の冊子。続きまして、参考資料1-3、同じくデザインガイドラインの本町南地区の変更(素案)の冊子。そして、参考資料1-4「なんば駅前広場について」というA3横の1枚ものでございます。続きまして、議題(2)その他の資料としまして、資料2「各部会の開催状況及び今後の委員会・部会の予定」、A4縦の1枚ものでございます。そのほか、委員の皆様には都市景観委員会資料綴のファイルを卓上に準備しております。委員会関係資料は以上でございます。不足がございましたら、審議中でも構いませんので、事務局までお申しつけください。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきたいと存じます。これからの議事進行につきましては、嘉名委員長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○嘉名委員長

皆さん、どうもこんにちは。暑い日が続いておりますけれども、くれぐれも体にご自愛ください。

それでは、早速議事に入らせていただきたいと思いますけれども、その前に、当委員会については運営要綱第4条第3項に基づきまして議事録署名人を指名してお願いすることとしております。本日は小谷委員と清水委員のご両名にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入っていきたいと思います。議題の(1)御堂筋の景観誘導について事務局から説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局(齋藤)

都市景観担当課長の齋藤でございます。私のほうから議題(1)御堂筋の景観誘導についてご説明させていただきます。

御堂筋の景観誘導につきましては、令和4年3月の第63回都市景観委員会におきまして、道路空間と沿道敷地との一体的な景観誘導をめざして検討を進めるということを確認いただきまして、今年3月の前回、第65回の都市景観委員会におきまして、御堂筋デザインガイドライン区間の景観計画への位置づけ等及び道路と沿道敷地が一体となった景観誘導についての方向性をご確認いただいたものでございます。今回、この方向性に沿って景観計画の変更素案ですとか、御堂筋道路空間再編整備ガイドラインの素案を作成いたしましたので、その内容についてご説明いたします。

それでは、資料の1-1をご覧ください。同じものを前のスクリーンにもお出ししておりますけれども、ちょっと字が小さいかと思っておりますので、お手元の資料でもご確認いただ

ければと思います。

御堂筋の景観誘導について、景観計画及び関連するガイドラインの変更等についてご説明いたします。

こちらの資料は今回の変更等の内容を1枚にまとめた概要版となります。資料の上のほうに「官民共創による御堂筋のまちなみ創造に向けて」というふうに記載しておりますけれども、御堂筋の沿道では、平成26年から地区計画ですとか御堂筋デザインガイドラインに基づく事業者と本市との対話によるまちなみ創造に取り組んでまいりました。また、近年では、御堂筋の側道の歩行者空間化に取り組んでおりまして、官民共創による御堂筋のまちなみ創造が進められているという状況です。このような状況を捉えまして、大阪市景観計画につきまして、御堂筋における景観誘導のあり方を整理いたしまして、御堂筋を含む大阪市全域を網羅する総合的な計画となるよう、大阪市景観計画の一部を変更いたします。

今回の具体的な景観計画の変更内容につきましては、この資料にありますとおり、左側の1番、御堂筋デザインガイドライン区間の景観計画の位置づけ等、それから右側の2番にあります道路と沿道敷地が一体となった御堂筋の景観誘導の、この2点が大きな柱となっております。

まず1点目、御堂筋デザインガイドライン区間の景観計画への位置づけ等のうち、①「まちなみ創造区域」の創設についてご説明いたします。資料左側①のところでございます。御堂筋のうち、土佐堀通から長堀通の区間については、先ほど説明しましたとおり地区計画ですとか御堂筋デザインガイドラインなどによる事業者と本市との対話・創造に基づく景観誘導を実施してまいりました。このように、対話・創造型の景観誘導によって良好なまちなみを形成してきた区域を対象としまして、景観計画における従来の「基本届出区域」及び「重点届出区域」とは別に、対話・創造型をベースとした区域であることを明確化するために、第3の区域として「まちなみ創造区域」を新たに定めるとともに、この地区につきましては「御堂筋デザインガイドライン地区」として位置づけます。資料ではオレンジ色で着色し、赤色で表記した部分が今回創設します「まちなみ創造区域」でございます。この枠組みのイメージをその右側に示しておりますけれども、このオレンジ色のところ、まちなみ創造区域につきましては景観法に基づく基準型の景観誘導に加えまして、要綱、デザインガイドラインに基づき事業者と大阪市内で対話しながら事業者の創意工夫を生かしたまちなみを創造していこうという仕組みでございまして、これは全国的にも先進

的な景観誘導手法であると考えておりますけれども、これを景観計画に位置づけようとするものでございます。

次に、資料の左下②「大阪を代表するエリア」への位置づけでございます。景観計画では、眺望景観づくり及び夜間景観づくりを重点的に推進するエリアといたしまして、現在は「大阪城公園周辺」、それから「中之島等」及び「ベイエリア」、これらを「大阪を代表するエリア」として位置づけておりますけれども、今後は「御堂筋とその沿道」を新たに位置づけることによりまして、御堂筋が景観計画において重要なエリアであるということをも明確化いたします。資料では赤線で囲まれた赤色の部分を今回追加いたします「御堂筋とその沿道」というエリアを示しております。

次に、2点目の柱の道路と沿道敷地が一体となった御堂筋の景観誘導についてでございます。資料右側になりますけれども、御堂筋では、車中心から人中心の道路空間への転換をめざして、平成31年3月に「御堂筋将来ビジョン」を策定いたしまして、その実現に向けたファーストステップといたしまして、側道の歩行者空間化に取り組んでおりますけれども、この整備に関しまして、シンボルストリートにふさわしい街路景観を創出するための空間づくりですとかデザインの考え方などを示した「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」、通称「みちガイドライン」といいますけれども、これを策定いたします。また、景観計画におきましては、景観重要公共施設であります御堂筋の整備の事項及び占用許可の事項に関連づけるとともに、沿道敷地における各制度との整合を図り、道路と沿道敷地が一体となった景観誘導を進めてまいりたいということで、資料では「みちガイドライン」のイメージを示しております。それと、対象区域及びその範囲につきまして、平面及び断面で示しているところでございます。

最後に、資料右下3番のところを参考として記載しておりますが、「御堂筋デザインガイドライン」の変更についてでございます。「御堂筋デザインガイドライン」につきましては、平成26年の運用開始から約10年を経過したということですのでけれども、この間に誘導事例が蓄積されてきたということも踏まえまして、「誘導事例集」というものを追加したり、これまでの対話の中で整理されてきた建築等に当たっての配慮していただく事項の反映ですとか、分かりやすい説明の補足などによりましてガイドラインのほうも内容を充実いたします。

これら「みちガイドライン」及び「御堂筋デザインガイドライン」の変更につきましては、後ほどまた各担当から説明させていただきます。

資料1-1につきましては以上となります。

一通り資料の説明からさせていただきますので、続きまして資料1-2をご覧くださいければと思います。

こちら、大阪市景観計画変更の素案となります。この資料は、これまでの景観委員会での議論を踏まえまして、それを反映した形での景観計画の変更（素案）になります。今回の変更にあたる部分は赤字で記載しているところがございますけれども、本日の説明といたしましては、先ほどの資料1-1で説明した主な変更のポイントに沿ってご説明させていただきます。

まず1点目ですけれども、「まちなみ創造区域」の創設についてでございます。先ほどの資料1-1でも説明させていただいた内容とも重複いたしますけれども、現在、景観計画に定めております「基本届出区域」と「重点届出区域」に今般新たに「まちなみ創造区域」を追加すると。あわせて、同区域内に「御堂筋デザインガイドライン地区」を設置するというものでございまして、資料の中では61ページのところに景観計画の枠組み、それから62ページのところに景観計画の区域にそれぞれ「まちなみ創造区域」を追加することと、65ページのところに「まちなみ創造区域」の説明文を追加しております。この区域名称としては「まちなみ創造区域」ですけれども、今回指定する1地区については「御堂筋デザインガイドライン地区」といたしまして、その範囲は65ページの四角の中に記載しているとおりでございますけれども、御堂筋の本町北地区及び本町南地区の地区計画に定める区域としておりますが、これまでの「御堂筋デザインガイドライン」におきまして規定しておりました範囲と同様に、本町通より南側の心齋橋筋に面する敷地で、御堂筋に接していない敷地については除くというふうにしております。

また、この「御堂筋デザインガイドライン地区」に関する景観形成方針ですとか景観形成基準を策定いたしました。資料では140ページ以降になります。

今回定める景観形成方針、そして景観形成基準につきましては、御堂筋デザインガイドライン地区の区域に従前かかっていた基本届出区域の内容を踏襲することを基本としておりますが、今回、御堂筋の地区の特徴であります官民共創によるまちなみ創造に関する内容を景観形成方針の冒頭のところに、140ページの中段下のあたりにまず盛り込んでおります。また、それ以外につきましても御堂筋の特徴に沿った内容になるように、例えば敷地内の空地、壁面後退部について、御堂筋のイチョウ並木の魅力を引き立たせる歩行者空間ですとか質の高い緑空間の形成など、配慮を求める内容で記載しておりますけれども、

今回新たな制限を加えるというような内容ではございません。

2点目の「大阪を代表するエリア」への位置づけについてでございます。資料では57ページになりますけれども、赤線で囲まれた中の赤色の部分が今回追加する「御堂筋とその沿道」となります。景観計画では、眺望景観づくり及び夜間景観づくりを重点的に推進するエリアとしまして、「大阪城公園周辺」、そして「中之島等」及び「ベイエリア」、これらを「大阪を代表するエリア」として位置づけておりますけれども、今回「御堂筋とその沿道」を新たに位置づけることによりまして、御堂筋が景観計画において重要なエリアであるということを明確化することとしております。

また、今回の変更にあたりましては、御堂筋の歴史に関する記載内容についても充実を図ります。本編資料13ページから15ページになります。まず、13ページ、黒字の部分は従来から記載されていた内容となりますので、現在の景観計画にも御堂筋沿道の市街地形成の項目がございますけれども、御堂筋の歴史に関しましては、御堂筋の完成から百尺制限がかけられた時点までの記載となっております。今回の変更としましては、時代ごとに区分する形で13ページの上段赤字で「御堂筋の完成と百尺制限」、それから14ページに「時代に応じた高度利用への対応」、それから15ページに「官民共創によるまちなみの創造」、この3つの中項目を設けまして、それぞれの時代ごとの景観誘導に関する内容を追記することで内容を充実させるということといたしました。

まず、13ページの「御堂筋の完成と百尺制限」では、ページの下の方の赤字部分のところ、百尺制限の廃止後の御堂筋沿道の建築物の高さ制限について追加いたしました。次に、14ページの「時代に応じた高度利用への対応」のところでは、高さ制限の見直しの背景ですとか、地区計画の都市計画決定、それから御堂筋デザインガイドラインの策定などについて追加しております。それから、15ページの「官民共創によるまちなみの創造」のところでは、「御堂筋デザインガイドライン」に基づく官民共創によるまちづくりですとか、「御堂筋将来ビジョン」に基づく道路空間の再編など、現在の取組について記載いたしました。

また、資料の38ページになりますけれども、こちらは景観構造の基本となります面的な要素についての記載となっております。都心部、臨海部、一般市街地を説明しておりますけれども、都心部のうちの都心中央部、この中で赤字のところは、「御堂筋デザインガイドライン」に基づく取組ですとか「御堂筋将来ビジョン」の取組など、御堂筋に関する内容をここにも追記いたしました。

続きまして、「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の景観計画への関連づけについてでございます。こちらは先ほどの概要版資料1-1の右側、番号2で説明いたしました内容ですけれども、御堂筋では景観法で指定される「景観重要公共施設」として景観計画に位置づけております。また、景観重要公共施設に関しましては、景観法において整備に関する事項及び占用の許可の基準を定めることとしておりまして、景観計画においてそれぞれ規定しております。今回、御堂筋の街路景観を創出することを目的とした整備のルールとして、建設局におきまして、「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」、通称「みちガイドライン」を策定することから、このガイドラインを景観計画における整備に関する事項及び占用等の許可の基準に関連づけることとしておりまして、これによりまして景観重要公共施設との関連性を強固なものとしたしまして、道路と沿道敷地が一体となり、その景観を形成していくという方向性を明確化したものでございます。資料では168ページから169ページになります。整備及び占用許可のそれぞれ既存の項目に加えまして、赤字部分になります、「御堂筋将来ビジョンに基づく御堂筋道路空間再編整備ガイドラインなど別に定めがある場合はこれによるものとする」と。この一文を追加いたします。なお、このみちガイドラインの内容につきましては後ほど建設局より説明がございました。

そのほかの変更点といたしまして、主に文言の調整ですとか時点の修正等を行っております。その一例といたしましては、資料の2ページ目から3ページ目にかけてでございます。こちらにつきましては表題を、赤字で読みにくく恐縮ですが、「景観計画の策定及び変更の変遷」と改めるとともに、文中に、平成18年2月の景観計画の策定、それから平成29年3月の景観計画の変更、同じく令和2年3月の変更、そして今回実施します令和6年3月の景観計画の変更といった中項目を設けまして、それぞれ経過ですとか変更の内容について記載しております。また、4ページ目には戦前からの本市の主な景観施策について表にしてありますが、令和期についての景観施策に関する内容を今回追加いたしました。それから、5ページ目のところですが、景観計画の位置づけを記載しておりますけれども、景観計画と関連する計画について時点修正を行っております。

それから、最後に資料の171ページになります。この171ページですが、第7章、大規模面的整備地区における景観誘導に関しまして、一部変更がございました。大規模面的整備を行う地区における事前協議制度がございまして、「御堂筋沿道建築物のデザイン誘導等に関する要綱」に基づく協議というのを別途事前に行った場合も現在は大規模面的整備の協議対象としておりますけれども、赤字で記載しております「ただし書き」の

追加によりまして、この要綱に基づき同様の趣旨で事前協議を行っている場合には、大規模面的整備地区としての協議対象から除外することといたします。これによりまして、従前、デザイン協議を担保しながら、事業者にとりましては本市に2回出していた書面の提出につきまして、負担の軽減につながるものというふうに考えております。

そのほか、全体にわたりまして文言の表現調整等を行っておりますけれども、詳細については説明を割愛させていただきます。

資料1-1、1-2については、説明は以上になります。

続きまして、資料1-3「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン（みちガイドライン）」につきまして、建設局のほうから説明いたします。それでは、建設局、よろしく願いいたします。

○一ツ町建設局都心活性化担当部長

建設局都心活性化担当部長の一ツ町でございます。本日はよろしくお願いいたします。

私のほうから、御堂筋道路空間再編整備デザインガイドラインについてご説明させていただきますと思います。

内容についてご説明させていただく前に、その説明に先立って、現在の御堂筋の側道歩行者空間化の整備状況を簡単にご報告させていただこうと思います。

資料1-1の中段の対象区間の範囲図を準用して見ていただければと思います。御堂筋の側道歩行者空間化の整備につきましては、長堀通からなんば駅までの区間で工事を進めております。うち道頓堀川から千日前通、この区間の200メートルの区間については、昨年11月に両側の側道歩行者空間化の整備が完成してございます。また、長堀通から道頓堀川までの700メートルの区間につきましては、昨年10月に大丸、PARCOさんのある東側区間の側道を閉鎖しております。そこで工事を開始しております。今年5月には日航ホテル、OPAなどがある西側区間についても側道を閉鎖して順次工事を進めているところでございます。大阪・関西万博開催までに長堀通からなんば駅前の区間まで完成させる予定として工事を進めているというところでございます。

資料1-3をお願いします。整備ガイドラインのほうについてご説明させていただきたいと思います。前回の委員会の中でご説明した内容と大きく変更はございませんけれども、少し時間もあきましたので、主な概要と、若干修正をさせていただいておりますので、そのご説明をさせていただきたいと思っております。

御堂筋道路空間再編整備ガイドラインにつきましては、現在進めています御堂筋の側道

歩行者空間化の整備に関して、大阪のシンボルストリートにふさわしい街路景観を創出することを目的に、空間の考え方やデザインなどについて示したものとなっております。

1 ページ、右側でございますけれども、目次を書かせていただいております。本ガイドラインの構成といたしましては、1 章「はじめに」がございまして、その中で目的や構成を記させていただいております。2 章のほうで「めざす空間のイメージ」、3 章のほうで「デザインの考え方」というふうなことの記載をさせていただきます。

3 ページ目に本ガイドラインの対象区域を書かせていただいております。側道の歩行者空間化を進めています淀屋橋から難波西口交差点までの区間を対象ということでガイドラインの策定をしております。

4 ページですが、街路景観の要素といたしまして、イチョウをはじめ照明灯、地上工作物等のデザインエレメントごとの基本的な考え方を示しまして、空間の質的向上を図っていくということを書かせていただいております。

5 ページ以降には、めざすべき空間のイメージを記載させていただきます。御堂筋の空間再編に先立ちまして策定した「御堂筋将来ビジョン」に示した空間整備の基本方針におけます空間の質と空間の構成を実現していくために、デザインの基本的な考え方を記させていただいているというところでございます。

10 ページ目でございます。10 ページ目は、御堂筋の沿道の土地利用などの特徴を反映した各エリアテーマを設定させていただいております。そのエリアテーマに応じた空間づくりを行うということとしてございます。今年度後半から来年度にかけまして、淀屋橋から国道2号の北側の区間、淀屋橋から北の区間ですけれども、これの西側歩道についてリニューアル工事を実施する予定にしているということもありまして、エリアテーマを赤囲みのところを追加させていただきます。この区間のテーマとしては、商業ゾーン、業務ゾーンが隣り合うエリア、中之島の水、緑など豊かな都市環境を有するエリア、多様な人々や企業、情報などが集積交差するエリアとして、御堂筋への期待感と潤い、ゆとりを感じるアメニティエリアとしております。

続きまして、13 ページでございますが、各エレメントの基本的な考え方を記させていただきます。御堂筋の沿道建築と道路空間が一体となった景観誘導を行っていくことのためには、景観計画や御堂筋デザインガイドラインなどで示されています方向性と整合した基本的なデザインの考え方を示してございます。街路景観として一定の統一感を持たせつつ、エリアテーマに応じた変化とにぎわいを感じる空間づくりを行っていく

こととしてございます。

14ページ以降には、各エレメントのデザインの考え方を示させていただいております。具体的な記載内容でございますけれども、例に取りますと14ページ目のイチョウのところでございますが、イチョウ並木は文化財となっておりまして、御堂筋のアイデンティティを形成している重要な景観要素であると。そのために、イチョウを保全していただくだけではなくて、魅力を伸ばしていくことをめざした内容というふうなことを記載させていただいているというような状況でございます。実際に施工しています根系誘導耐圧基盤工ですとかツリーサークルなどの設置など、整備した写真を用いて分かりやすく取りまとめているというようなところでございます。以降、同様にエレメントごとに考え方なり方向性を書かせていただいているというところでございます。

18ページでございます。18ページにはサインのエレメントを記述してございますけれども、御堂筋の沿道や周辺エリアの人の回遊行動の向上を図るために、歩行者案内サインの設置を検討しているという状況でございます。地域情報サインの項目を今回赤字のところ追加させていただいております。

最後、22ページでございますが、イメージパースを掲載しております。こういったイメージになるよう整備を進めているといった状況を記させていただいているというものでございます。

「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の説明は以上でございます。今後は、空間再編の整備の進捗とともに、本ガイドラインの点検ですとか修正、必要に応じた改正なども行っていくという予定としております。

以上でございます。

○事務局（齋藤）

ありがとうございました。

引き続きまして、資料1-4「今後の進め方」についてご説明いたします。

資料の上段になりますけれども、本日、第66回都市景観委員会ということで、ただいま説明してまいりました景観計画の変更（素案）、それから「みちガイドライン」の（素案）についてご確認をいただきたいと考えております。

次に、9月頃を予定しておりますけれども、景観計画、みちガイドライン、それから御堂筋デザインガイドライン、この3点についてパブリックコメントを実施してまいります。このパブリックコメントの期間は1か月を予定しております。パブリックコメントで寄せ

られました意見などを集約した上で、各意見に対する本市の考え方などにつきましては、秋頃開催を予定しております第67回都市景観委員会におきましてご報告させていただきたいと考えております。また、冬頃、12月頃を予定しておりますけれども、景観法第9条第2項の規定に基づきまして、都市計画審議会におきまして景観計画変更案についての意見聴取を実施したいと考えております。

なお、今回の「まちなみ創造区域」の追加につきましては、都市景観条例の改正を伴いますので来年1月頃を予定しておりますけれども、この条例改正につきまして大阪市会へ上程いたします。

これらの手続を経て、今年度末にかけまして景観計画の変更、それから「御堂筋道路空間再編整備ガイドライン」の策定、それから「御堂筋デザインガイドライン」の変更を行ってまいりたいと考えております。

以上、長くなりましたけれども、議題（1）に関する説明は以上でございます。

○事務局（相本）

続きまして、つけております参考資料のほうの説明も引き続きさせていただきたいと思っております。参考資料1-1「御堂筋デザインガイドライン〈まちなみ創造ガイドライン〉の変更内容【概要】」及びその素案、それと参考資料1-4「なんば駅前広場について」につきまして、それぞれ担当からご説明させていただきます。

これらの参考資料につきましては、この内容自体が審議の対象ではございませんが、それぞれ議題（1）に関連するものとしてご報告をさせていただきます。

まずは御堂筋デザインガイドラインの変更について、計画調整局計画部都市計画課デザイン施策担当よりご説明いたします。よろしく申し上げます。

○事務局（伊東）

計画調整局計画部デザイン施策担当課長代理の伊東と申します。よろしく申し上げます。

私からは、「御堂筋デザインガイドライン〈まちなみ創造ガイドライン〉」の変更内容の概要についてご説明いたします。参考資料1-1をご覧ください。

変更概要につきましては、資料の左上、青色囲みの部分に記載しておりますが、御堂筋デザインガイドラインは、平成26年の運用開始から約10年が経過し、ガイドラインに基づき誘導事例が蓄積されてきたことを踏まえまして、今回のガイドライン変更で誘導事例集の追加や、より分かりやすい説明の追加などにより、ガイドラインの内容を充実させ

ることといたしました。

なお、今回の変更は、規制を厳しくするものではなく、ガイドラインを分かりやすくするためのものがございます。

次に、御堂筋デザインガイドラインについてご説明いたします。資料の左下、オレンジ色で囲んでいる部分になります。

御堂筋のうち、図面で示しております土佐堀通から長堀通までの区域では、建築物の用途や形態、壁面後退などについて地区計画を定めておりますが、これに加えて、よりよいまちなみ形成のための形態意匠や、にぎわい形成のための指針などを示した「御堂筋デザインガイドライン」を定めており、このガイドラインに沿って、大阪市と事業者等との対話によるデザイン協議を行っております。

なお、「御堂筋デザインガイドライン」は、図面上、赤色の破線で示しております土佐堀通から中央大通までの区間が「御堂筋本町北地区」、青色の破線で示しております中央大通から長堀通までの区間が「御堂筋本町南地区」と2つのエリアから構成されております。

資料の右側に変更内容を記載しております。誘導事例集の追加やまちづくりのいきさつの更新、より分かりやすい表現の工夫などにより、本ガイドラインの内容の充実を図っております。参考資料1-2は、御堂筋デザインガイドラインの御堂筋本町北地区、参考資料1-3は、御堂筋本町南地区の変更素案になりますが、内容のご説明については割愛させていただきます。

「御堂筋デザインガイドライン」の変更についての説明は以上でございます。

○事務局（相本）

それでは、引き続きまして御堂筋に接するなんば駅前広場整備の現状等につきまして、計画調整局開発調整部よりご説明いたします。資料は、参考資料1-4「なんば駅前広場について」です。それでは、よろしく願いいたします。

○西江計画調整局開発調整部長

計画調整局で開発調整部長をしております西江でございます。本日よろしく願いします。

本日はお時間を頂戴しまして、なんば駅前広場で今大阪市が取り組んでおります駅前広場の歩行者空間化についてご報告させていただきたいと思っております。3点ご報告させていただきます。資料は、参考資料1-4をご覧ください。すみません、座って説明させていた

できます。

なんば駅前広場でございますけれども、従前、右上の駅前広場の現況というところにありますように、ほぼタクシープールでございました。これは、管理上は道路になっているんですけれども、こういう形態でございました。これを、左側にありますように車中心から人中心の空間へと再編しようということで、今、歩行者空間化の整備を進めているところでございます。将来イメージを右下のほうに書かせていただいておりますけれども、こういう広場になる予定でございます。これに当たりましては、左側、1の中ポツにありますように、「なんば駅周辺における空間再編推進事業整備プラン」というものを昨年7月に策定いたしまして、基本方針としましてその下の枠囲みでございますシンボル空間創出の方針として、例えば方針の①多様な活動の舞台となる空間の創出というようなことを掲げて整備を進めているところでございます。

舗装デザインへの展開といたしまして、この整備プランにて位置づけた基本方針に基づきまして、地元の方々や有識者の方々と調整しながら広場の舗装を行っております。デザインにつきましては御堂筋と同等のグレードの擬石平板を使ったデザインについて合意をさせていただいております。その擬石平板の様子が左下のフロアテクスチャのところに書かれておりますけれども、既に一部こういう整備をしているところがございまして、現地に行かれますと部分的にこういう舗装になっているというような状況で、今、鋭意工事を進めさせていただいているところでございます。これが1点目でございます。

次に、裏面見ていただきまして、喫煙所の再整備についてご報告いたします。喫煙所は既にオープンな形であるんですけれども、今回の空間再編に合わせて喫煙所の再整備を行います。これに際して、受動喫煙が生じにくい閉鎖型の喫煙所を設置する予定でございます。この閉鎖型の喫煙所につきましても広場と調和するデザインとしまして、そのデザインにつきましては地元の方々や有識者の方々と調整しながら決定しているところでございます。真ん中左側の中ほどにありますように、ダークグレーで統一されていることから、こういった基調にさせていただきまして、イメージパースを右側に記させていただいておりますが、こういうような喫煙所になる予定でございます。優しい木質の表情をルーバーで取り入れたような、少しおしゃれな感じのする喫煙所にしようということでやっております。

続きまして、3点目でございます。広場の景観ルールにつきましてご説明させていただきます。広場は、エリアマネジメント組織による維持運営をめざしまして、令和5年秋頃

の広場の供用開始以降、管理運営の社会実験を実施しながらやっていこうということで考えております。この中で、広場の利活用や景観誘導等のルールに関しましては社会実験の中で実施いたしまして、エリアマネジメント組織が道路空間上の広告物や設置物を自主的に審査するような地域のルールの構築をめざして検討を進めてまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。ありがとうございました。

○事務局（相本）

ありがとうございました。

議題（１）に関する資料の説明につきまして、これで全てでございます。事務局からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○嘉名委員長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

何度も今まで意見交換もさせていただいて、ご丁寧に何度も事前説明もいただいているので、逆に全く意見が出ないかもしれませんけれども、今後の抱負も含めて言っていただいたら結構かと思えます。

○中嶋委員

中嶋でございます。

何度も聞いているのに意見をするのちょっと心苦しいんですけども、感想というか少し気になったところを幾つか申し上げたいと思えます。

まず、御堂筋の今回の景観計画の変更の素案の５７ページになります。５７ページのところに「大阪を代表するエリア」の考え方の中、凡例の地図のほうを見ているのですが、この中で、今回の「御堂筋とその沿道」が眺望・夜間景観というくくりの中で位置づけられて、ここに書き加えられているかと思えます。５６ページの眺望景観の考え方をいうと、一般的にここでは典型的な３つの見渡す眺め、見通す眺め、ランドマークの眺めで、恐らく御堂筋については見通す眺めということで眺望というふうに入れていただいているんですけども、ただ一般的な眺望景観というのと御堂筋の景観というのが必ずしも１対１ではないような気がします。今回の御堂筋整備のガイドラインのほうのご説明の中で、視点場を設定して整備されると。そういう意味では眺望というふうには言えるのかもしれないんですが、やはり御堂筋については人々のアクティビティ、街路空間と建物が一体

となったということをめざされることを思うと、もう少しアクティビティとまちなみと、眺望もなんですけれども、そういう複合的な非常に重要な景観の場所ではないかなと思うので、ここで眺望・夜間だけに位置づけるのでいいのかなと。ちょっとその辺が感想として持っています。

あと、2点目はガイドラインのほうになります。内容については特に異議はないのですが、最近の環境省とか国交省とかが考えられているものの中でグリーンインフラというものが、緑の社会資本というものを充実させていくということで、自然景観だけではなくて都市の中でつくられていく中で、御堂筋でもいろんなイチョウ並木の整備であったりとか、あと緑地の整備をされるということが書いているので、グリーンインフラ的な視点みたいなものも、ガイドライン自体は同じであったとしても、もう少し訴えていくというのはこれから大事ではないか。単に景観とか街路整備ではなくて、グリーンインフラを充実していくというのを、昭和の初期にイチョウ並木を植えて顔をつくった景観が、今度は今の時代はやはり環境としてグリーンインフラとして市民あるいは大阪にいらっしゃる方々に提供する、資源になるという意味では、そういう方向性も打ち出させていただくというのではないかとというのが2点目です。

この2点が大きいのですが、あと細かいところで申し上げますと、やはり景観計画の改訂のほうですけれども、12ページ以降、これまでの歴史を少し充実させていただいていましたが、これは非常にいいことだというふうに思うんですが、2章の全体を見ると御堂筋だけが細くなって、ほかのところは薄くなるというか、たまたま御堂筋の隣、13ページから御堂筋ですけれども、12ページのところの戦後のまちづくりってこれだけしかないのかという、そのアンバランスがちょっと気になりますので、ほかの地区も含めてなんですけれども、そこは追い追い、充実すると、ここばかりですごい量になるので、ちょっとバランスを考えていただくというのもよいのではないかなというふうに思いました。

あとは、これもできないことではあるのですが、景観重要建造物の第1号で大阪城がこの前指定されました。今回、御堂筋がこういう形でクローズアップされてくるので、本来ならばイチョウ並木が景観重要樹木みたいな形で指定できるといいなと思ったんですが、既に指定文化財になっているので、恐らく景観重要樹木にはならないのですが、そうであるとするなら、もう少し指定文化財だということを喧伝するというのも重要ではないのかと。文化財になったからといって大して財政的な措置ができるわけではなくて、むしろ景観重要樹木のほうがよかったかもしれないんですけれども、御堂筋のイチョウ並木の歴史

とともに、今の建設局になるんですかね、市が設計した当時としては非常に先端的な並木だったので、こういうものも文化財としても、あるいは景観としても重要視していくということをもっと宣伝していただけるとありがたいかなと思っております。

私からは4点になります。ありがとうございます。

○嘉名委員長

ありがとうございました。

どうしましょう。事務局から何か。

○事務局（齋藤）

ありがとうございます。

まず1つ目の大阪を代表するエリアのところですか。確かにこれまでの記載の内容というのが眺望と夜間のというところで、確かにそれ以外の要素というのは、作業としては今後景観読本のほうに御堂筋についてももしっかり書き込んでいくことになろうかと考えておりました、その中でどういった要素というのを着目して記載していくのかというのは考えていく必要があるかと思っておりますので、眺望と夜間に限らずというところはまたご意見も頂戴しながら作成していけたらなと思っております。

それから、2つ目のグリーンインフラです。この整備につきましても我々行政で主体的にというよりは、沿道の方々と話し合いながらというところかとは思いますが、またどういったインフラの整備として進めていけるかというのは、何ができるかというあたりを考えていきたいなと思っております。すみません、お答えになっているかどうかあれですけども。

それと、3つ目の歴史のところのアンバランスです。これも確かに、今回メインが御堂筋のことをしっかり書き込もうというのがありましたので、ただちょっと課題の認識として、頂戴した意見を踏まえてまた今後に対応を考えていけたらなと思っております。

それから、景観重要建造物、あるいは樹木のところも、大阪城天守閣のところを指定して、その次のところは我々も課題認識しているところでもございますので、またそれは継続して引き続き検討していきたいというふうに思っております。

一旦以上になります。

○嘉名委員長

ありがとうございました。

恐らく最初の話は、57ページのところって、景観施策の展開の方向性ということで、

これまでどんな施策を充実させてきたかという流れの中で眺望・夜間景観というのが出てきていて、一番最初の資料の展開でいうと、2ページ、もともと18年の2月に景観計画を策定して、29年に改訂して、令和2年のときに改訂した。令和2年のときに眺望・夜間景観というのが盛り込まれたという流れの延長線上で記載していただいているんだけど、本当はそういう流れでいうと多分まちなみとか共創という新しいキーワードがその後についてくるみたいなほうがしっくりくるのかなという気はしますが、少しまたお考えいただいてもいいかもしれませんけれども、一旦はこの眺望・夜間景観の中に収めていただいているということかなというふうには思いますが、ここは今までの積み上げで展開している方向性が広がってきているという整理かなという気もいたしますので、今日のご意見をまた参考にさせていただいたらいいかなと思います。

それから、アンバランスの件も、これも結局同じで、今まで改訂で力点を入れたところを充実させてきているので、改訂されるたびにだんだん太いところ、薄いところみたいなのがだんだんこなれてくるのかなというふうには思いますが、それはぜひご辛抱いただければということかなと思います。

それから、イチョウの件は、これ実は確かに景観重要樹木にはなれないかもしれないけれども、今回道路再編の中でかなり丁寧に頑張っていただいているので、もしーツ町さん、補足していただけるなら。

○一ツ町建設局都心活性化担当部長

今回、イチョウをやり替えるに当たっては、まず、従来でありますと植樹柵から外に根が出られないような状況になりますけれども、今回そういった根の生育も考えて、御堂筋の景観が緑豊かで、そういった樹勢も感じられるような空間にしたいということで、根が歩道の下にも伸びるような形を許容するような形で道路構造を再編しているというような状況でございます。また、舗装の上に降った雨も、舗装があれば下に浸透しないという状況になるんですけれども、そこも透水性舗装という舗装を使いまして、下に水が行くような形で、こういった空間の中なので自然空間とはちょっと違うんですけれども、なるべくイチョウの樹勢を落とさないような形でこういった都市景観を保って、元気なイチョウ並びにそういった樹勢が勢いよくあるようなものを再現させるために道路空間の中で行っているというようなところなんです。

イチョウについては沿道の方々だけではなくて都市内の方々にも愛着を持っていただいているということで、このデザインガイドラインの中ではこういった書き方をさせていた

だいていますが、整備の取組の中ではそういったところで樹勢を落とさないような形であるとか、地域に長く愛していただくような、木も枯れたからすぐ入れ替えるというわけではなくて、そういった緑のインフラとして大事に扱うような形で今回再編させていただいているというものでございます。

○嘉名委員長

ありがとうございました。

ほかいかがでしょうか。

○加我委員

ちょっとだけ。先ほどの「みちガイドライン」のほうの検討のときも携わらせていただきましたことも含めて、少しイチョウの扱い方ということについて補足をさせていただきたいと思います。

この「みちガイドライン」の策定に当たって一番重視したのは、当初、ファニチャーの議論であったりだとか路面舗装の議論であったりだとかということと加えてイチョウというようなことを議論していたわけですが、先ほどご説明ありましたように、特に14ページに各デザインエレメントのデザインの考え方ということで、一番最初にイチョウが出てきます。この順番も、御堂筋はイチョウがあつてこそですし、さらにここでの考え方として、イチョウを保全してだけでなく、イチョウの魅力を伸ばしていくと。今般、このガイドラインの策定に当たってではないですが、今後のイチョウの管理ということでいきますと、実は樹勢回復を第一優先としというふうにあるんですが、樹勢状態がどういう状態だったのかということ実はチェックができていなかったというところもでございます。それらを、3Dレーザースキャナーも含め、それから樹木医の方の樹勢診断も含めということで、1本1本チェックしていただいているところでございます。そうしたデータに基づいて、特に樹木生理学の先生にもご議論いただきまして、根の生育が一番重要であるということで、根系の状態を再整備に当たってきっちり見ながら進めていきたいと思いますということで、根の生育を考慮したツリーサークルの配置やグリーンインフラの導入等を行っていきますということで検討を続けていくというか維持管理をしていくということになってございます。そういう面で行きますと、かなりの部分がイチョウのということに注目していただいていると。見てみますと、戦前からのイチョウもあれば、戦後ずっと国道管理の時代にも植え替えをしていましたけれども、常に枯れ木であったりが発生した場合にイチョウを植え替えてきたというか更新してきたということもございますので、樹齢が非

常に多岐にわたってございます。そうした樹齢も見ながらということと、中には幹自身が真っすぐでない。東、西に寄ったりだとかというようなこともございますので、そうしたことを樹勢診断も含めデータに基づいて今後管理をしていくということが、特にこの「みちガイドライン」の中での重要な項目になってこようかと思えます。

ちょっともう一点、長くなりますが、グリーンインフラ。先ほどのところでグリーンインフラの導入をということで一部出てきますが、もう少しこのグリーンインフラの言葉を前面に出そうかということの議論がございましたが、あえて少しグリーンインフラという言葉は使わないような状態で整理をしてございます。というのは、先ほどお話しいただいたグリーンインフラの考え方がまさしく社会基盤としての緑ということの考え方だと思います。一方で、グリーンインフラは7ページに、空間の質、緑があふれる環境に優しい空間で、デザインへの具体化に当たって、右側ですけれども、将来の緑のネットワーク構築に向けた緑量の増加と、さらに質の高い緑空間の確保の中で、水源の涵養を考慮した植樹帯ということが出てきます。グリーンインフラという言葉自身が、まだ見解が統一されていないというか、ややもすると水源涵養、都市型洪水への対応といったところでのグリーンインフラという言葉が使われることが多分でございます。そうではなくて、ここでいきますと将来の緑のネットワーク構築、さらには質の高い緑空間、この2つが相まってグリーンインフラになっていく。場合によっては新・緑の基本計画がそもそもがグリーンインフラなんだということの考え方がなかなか世間では使われないこともありますので、あまり局所局所のところでグリーンインフラという言葉を使うのをやめようやないかということで、少し整理をしていただいたところがありますので、大きく出てこないのはその辺のところになろうと思いますが、グリーンインフラ的考え方でこのガイドラインは作成されているというふうに私は認識しているんですけれども、あえてこのグリーンインフラという言葉あまり出さなかったというのは一つ議論の中であったということをご報告させていただきます。

○一ツ町建設局都心活性化担当部長

ありがとうございます。しっかりやってまいりたいと思います。

○嘉名委員長

当初はもっとグリーンインフラと言ってはったんです。だけど、ちょっとそこは、グリーンインフラという定義を大阪市さんとしてどう導入するかということをもうちょっとはっきりさせてから言うほうがいいでしょうという議論があったのはたしかです。

福田先生、よろしいですか。

○福田委員

今頃かという話もあるかもしれないですが、せっかくなので確認も含めて。景観計画の146ページのあたり、工作物の中の夜間景観の広告というのがあるんですけど、ここでデジタルサイネージは意識されているのかどうか。要は照明するなら内照式と外照式というのはあくまでこれまでの看板だと思うんですけど、御堂筋に面した側と、あと通りに面した側があると思うんですけど、このあたりどうお考えかというのを確認しておきたいと思いました。これが1点目です。これが一番主の話なんですけど、あと2つありまして、「みちガイドライン」のイメージなんですけど、やっぱり一番初めに人中心への転換と書いているんですが、イメージがややもすると人が寂しいなど。アクティビティがあまり見えなくて、あくまで空間をつくるためのというのは分かるんですけど、こういうアクティビティを実現するために空間をつくるんだということをもう少し伝えるために人を増やすこととかアクティビティを増やすということが必要かなというふうにちょっと思いました。

3つ目はもっと小さな話で、多分図面の間違いだろうと思うんですけど、なんば広場の件です。参考資料の1-4ですけれども、これの裏面の分電盤がかなりでっかく書かれているんですが、これは実際はこうはならないんですよという一応確認です。図面だとすごく小さくて目立たないんですが、2m50cmぐらいあるので、「みちガイドライン」の例えば12ページ辺り、目線の高さより低い高さにするというふうに御堂筋の側では書かれているので、こういうふうなものが実現されるだろうと思うんですけど、一応確認としてコメントしておきます。

以上3点です。

○嘉名委員長

ありがとうございます。

どうですか。まず、デジサイの件からいきましょうか。

○事務局（齋藤）

御堂筋のデジタルサイネージの件につきましては、景観計画ではこのような表現なんですけど、別途、「御堂筋デザインガイドライン区間におけるデジタルサイネージ取扱要綱」というのを定めて、そちらのほうでルールづくり、それに基づくデザイン協議等を行っているという状況です。

○嘉名委員長

要綱なので、景観計画上には載ってこないということだということですよ。

○事務局（相本）

はい。景観計画上は載ってきません。

○嘉名委員長

だから、書いていないから何もしないというわけではないと。それはそれで、そういう整理かなと思います。

次は、「みちガイドライン」のビジュアル。これ確かにもうちょっと写真とか入れてもいいかもしれない。中身ばかり集中して考えていただいていたのかなと思う。どうですか、一ツ町さん。御堂筋は何度も社会実験もやっていただいているし、例えばそういうのを載せていただくとか。

○福田委員

言いたかったのは、人のアクティビティをもうちょっと表現できたほうがいいんじゃないか。そういう話です。

○一ツ町建設局都心活性化担当部長

アクティビティの部分につきましては、今、空間再編をやった後、その利活用を今やっていくべく、そういった空間の中でにぎわいであるとか滞留であるとか交流であるとか、そういったことができるようなこととして、いろいろな社会実験を繰り返しながら、そういったものが御堂筋にふさわしいかというようなことで検討と実施を徐々に進めているところでございます。これは沿道の皆さんともお話ししながら、いろいろなそれぞれのエリアの区間でそういったものがふさわしいか、御堂筋のこういった空間を保ちながら、そこでそういったアクティビティがふさわしいかという議論を進めながら、今でいいますと社会実験とかそういったところでそういった内容を詰めて、今後そういったものを実際に恒久的にやっていくんだというようなことを繰り返しながらやっているということで、そういったところも南側から整備区間が完成していっていますけれども、そこも含めて実施してきているという状況で、今後、そういったアクティビティをもっと広げるような形で回遊性も向上させていきたいというのが我々の思いでございます。

○嘉名委員長

シンプルに多分前半のほうにビジュアルとか充実させていただいたり、要は21ページの15番、利活用に係る工作物、道路占用物と書かれているこれなんかは、今回、人中心だから出てくる項目なんだけど、ちょっとうっすらとし過ぎているというか、もう少し人

中心というのがすぐ分かるようにしたほうがいいんじゃないかというご意見だと思いますので、それはちょっと編集の段階でうまく反映していただいたら。

○福田委員

結構絵がマスコミとかネットで出ているんですけど、我々は文脈を読み込めるんですが、「こうなるの、寂しいな」というのが出たりするんですよね。「こう変わるんです」というのをぴしっと見せたほうが良いという、そういう話です。

○一ツ町建設局都心活性化担当部長

写真などで工夫させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○嘉名委員長

それから、あとなんば広場の分電盤。

○西江計画調整局開発調整部長

すみません、21ページの分電盤のイメージが正しいイメージですので、ちょっとサイズがおかしいです。おっしゃるとおりです。

○嘉名委員長

これはやっぱりこうなるわけじゃないんですよね。

○西江計画調整局開発調整部長

違います。ちょっとそれは確認します。違うと思います。人の背を超えるような分電盤ではございません。

○嘉名委員長

ちょっと見たことないですよ。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

麻生先生、お願いします。

○麻生委員

麻生です。

ちょっと瑣末なことなのかもしれないですけども、57ページの大阪を代表する景観エリアとして御堂筋を入れるということ自体は全くそのとおりだなというふうに思うんですけども、ちょっとその凡例というか、今回御堂筋のラインがかなりはっきり入っていると。これまでのエリアの表記のされ方というのは、周辺がちょっとぼかしてあるのか、それとも大阪城公園のような形でエリアがはっきりしているのかというところで、御堂筋のこの表記というのがちょっと違和感があると申しますか、エッジがすごく際立っている

けれども、エリアそのものではないというか、そのあたりの表記の仕方はどうなのかなというふうな形でご質問させていただきます。

○事務局（相本）

ありがとうございます。色目も含めましてちょっとくっきりし過ぎているかなというところありますが、道路景観配慮ゾーンと一致させておりますので、あまりエッジが利いたような細かい設定になるものではないと思っています。ちょっと表現の仕方も含めまして検討したいと思います。

○嘉名委員長

ありがとうございました。

ほかいかがでしょうか。

じゃ、福原先生が先で、次、清水先生お願いします。

○福原委員

福原でございます。

今、麻生先生のほうからご意見が出たところ、実は私もすごく気になっていまして、全体の資料を見たときに、ここだけ何かすごく印象に残ってしまうんですね。一つは、57ページの図でいいますと、今ご指摘あったように御堂筋がものすごく強く赤い色できていて、御堂筋中心の図にまず見えるというところと、いろんなエリアが重なっているところで、複数のエリアが重なるところで、ベイエリアのあたりで重なっているところなんかは両方の色が重なったふうに見えるんだけど、御堂筋のところは御堂筋が中心でばっちりあって、じゃ、御堂筋のところは御堂筋優先かというぐらいの感じで見えてしまうので、そのところは、ほかのページのところでやっぱりいろんな項目でいろんな区域分け、例えば101ページの図とかでしたらかなり重なるところは網かけが重なるようにとか、繊細な地域分け、道路のどの線までが区域なのかというところまでやっぱりきちんと書かれたクオリティで全体が書かれている中で、これは概念図だとはいえ、たまたまといいますか、やはり気になるところで、全く同じ印象を持ちましたので、ちょっと重複しますけれども、私のほうからも申し上げさせていただきます。

以上でございます。

○嘉名委員長

ありがとうございます。ちょっと今回改訂した部分だけ赤みたいな表示をされていらっしゃるんだけど、最終形はまた少し確かにあるかもしれませんね。

○事務局（相本）

はい。ちょっと全体のバランスを考えて工夫させていただきます。

○嘉名委員長

ありがとうございます。

清水先生。

○清水委員

私もちょっと細かいことで申し訳ないんですけども、「みちガイドライン」のほうなんですけれども、初めのところに「フルモール化」という言葉が出てきて、その後にももう一か所フルモール化という言葉があったかと思います。これは残されるのかどうなのかというところが少し気になりました。人中心の空間への転換というところではもちろん間違いはないと思うんですけども、ここにフルモール化というところを残すのであれば、「将来ビジョン」であったりとかそこにも何か出てきてもいいのかなというところですし、私としては出さなくていいんじゃないのという思いがあるんですけども、本編の景観計画のほうで同じような文言は15ページのところで書いていただいているようなんですけども、そこには括弧書きの部分はない状態で景観計画のほうは表現をされているようですので、ちょっとこの扱いについてお聞かせいただけたらなと思います。

○一ツ町建設局都心活性化担当部長

ありがとうございます。少し検討させていただいて、方向的には抜く方向で考えさせていただこうかなと思っております。写真も空間再編の写真しか載せておりませんので、ちょっと再考させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○嘉名委員長

将来ビジョンの中にはフルモールという言葉が出てきていて、2037年にはフルモールを実現するとは書いてあるんですけど、フルモールとは何かは書いていないという、そういうところがありまして、このみちガイドラインの中で取り立てて書かなあかんことかという、あまり直接は確かに関係しないというところはあるので、整理していただいたほうがいいかもしれません。

ほかいかがでしょうか。

○加我委員

細かなことで申し訳ありません。まず、むちゃくちゃ細かなことでいいますと、2ページの景観計画の変更の令和2年3月、その次のところに平成28年3月と出てくるやつは、

西暦と和暦との併記をしといたほうがいいんじゃないかなというのと、平成31年3月29日も、ここも西暦と和暦との併記と、あと後ろで見つけたんですが、167ページの景観重要公共施設の中の島公園の明治24年に本市の都市公園第1号、西暦、和暦の西暦の表記が要るんじゃないかな。

気づいたのは2ページのときに、何で1934年とか2001年が赤字なのかなというのを見て、西暦、和暦にする変更なんやと思って、それで見ていると、中之島公園は公園ですのでもたまたま見た。それはちょっと本当に細かなことで申し訳ないんですが、4ページの景観誘導のところ、年表で、法令で、美観地区から始まって、いいなと思って、あつというふうに見ていくと、まず一番下のほうに景観重要建造物の大阪城第1号の指定というのも入っておくといいいかなというふうに思ったのと、それで後ろのほうを見てみますと、何ページやったかすぐ出てこないんですが、景観重要公共施設はそれぞれ中之島公園であったり御堂筋であったりというご紹介をいただくんですが、164ページにいったときに、景観重要建造物と景観重要樹木で、ここで第1号を指定しましたので、(2)の下に大阪城の話を入れるといいいなというふうに、アピールしたいなというふうに思いましたので。もう一度4ページの年表に戻ると、ここで今回の御堂筋のまちなみ創造区域の指定もアピールするかなというふうに思いましたし、そうすると景観重要公共施設が、前回の景観計画の変更かその前で指定した、景観重要公共施設は私すごく大事とされていて、全国的にあまり使われない。ところが、景観をということになると、公共施設はすごく大事なんですよね。中之島公園であったりだとか御堂筋であったりだとかということで、これを結構先駆的にも実施していると思いますので、年表のところにも入っているとほかにPRしやすいなというふうに思っていますので、ご検討いただければというふうに思います。

みちガイドラインの2ページに御堂筋の基本構造等が1937年で始まって、その次に平成29年に景観重要公共施設。こっちは西暦の表記のほうがいいなというふうに思いました。

○事務局（齋藤）

ありがとうございます。表現のところの整合とかはしっかりまた訂正させていただきます。あと、景観重要建造物についても、ちょっとここについてはまた今後読本のほうに記載する方法もありますし、それも含めて検討させていただけたらなと思っております。

○加我委員

公共施設のほうは結構一つ一つ記載しているし。

○事務局（齋藤）

そうですね、確かに。

○加我委員

もしくは少し文言だけでも、大阪城天守閣の話を入れとくといいのかなというふうに。

○嘉名委員長

ありがとうございました。これ、多分表記は、最近では西暦の後に括弧書きで和暦を書くというルールになっていて、多分景観計画、従前はそうになっていなかったものを、多分混ぜていると思うので、この際。みちガイドラインも多分一緒だと思います。よろしくお願ひします。

岡井先生、いかがでしょうか。

○岡井委員

ありがとうございます。特に意見という感じはないんですけども、感想ですけども、今まで御堂筋が大阪市にとって重要な景観であるにもかかわらず、景観計画だけを見ていくと、あるいは御堂筋って重点地区にもなっていないし、どうなっているのかなというふうにちょっと勘違いをしてしまうような状況であったのが、今回、景観計画の中に位置づけられたということは非常に意義深いことだなというふうに思っております。

その際に、よその自治体のように重点地区としてかなり基準を細かく設定するという方法もあったかと思うんですけども、これまでの御堂筋のデザイン会議の中での協議というやり方をそのまま取り込めるようにということで、あえて基準ではなく協議という形式をそのまま採用し、一応景観計画の中で一体として御堂筋も含めて景観規制ができるようになったということは非常に分かりやすくなったんじゃないかなというふうに思っております。

今後、御堂筋以外にもこういった協議で景観をつくり出していこうとするような地区が出てくるのかどうかというようなことが、今後の大阪市の景観政策という意味ではどうなるのかなというのがちょっと関心はあるんですけども、取りあえず当面のところは御堂筋が大阪市の中で非常に景観的に厳しくということであれですけども、事業者さんの協力を得ながらよい景観をつくり出していくということがアピールできるという点ではよかったかなというふうに考えております。

以上です。

○嘉名委員長

ありがとうございました。

○事務局（齋藤）

ありがとうございます。この間もそれぞれ事前の説明の中で各委員さんからも同じご意見いただいたところでもありまして、今回、「まちなみ創造区域」の設定、地区としては「御堂筋デザインガイドライン地区」の1地区を指定するんですけれども、それ以外にももし同様に対話・創造型の景観誘導といったものが出てくれば、第二弾という形で指定することができる形にはするんですけれども、現時点ではこの御堂筋についてがそれに該当する地区というふうに考えておりますので、もし2つ目のものが出てくればというところではあります。現時点ではそこはまだないのかなというふうに我々考えているところではございません。

○嘉名委員長

ほかよろしいですか。

じゃ、ちょっと私からも少しだけ。

どうもありがとうございました。かなりのボリューム。大阪市さん、最初は実は景観計画を市域全域で導入されてから10年ぐらいは音沙汰なくて、全然改訂がなかったんですけど、10年たって景観計画区域を区分されたということからは、かなり頻度高く改訂をしていただいている、今般は「まちなみ創造区域」というのを入れていただいたというところが特徴になっています。以前から御堂筋の景観誘導の中では地元と一緒にやるというやり方をされていらっやあって、これは遡ること10年前に、少し民主導でエリアマネジメントを中心としたような主体の中で景観誘導していくというようなことができないだろうかということだったんですけれども、当時は地元もなかなか、それを全て受け切るのは自信がないということもあって、じゃ、行政のほうでガイドラインをつくって、それを運用しながら民間さん、地元でもいろいろと景観形成に取り組むという仕組みはどうだろうかというような形で10年ぐらやってきて、かなりいろんな事例も積み重ねられてきたので、いよいよ景観計画の中に含めてもいいんじゃないかということできてきたという経緯がございます。そういう意味では、実は今回の改訂というのはかなりの年月の蓄積の中でできているというのが非常に特徴的だと思います。

恐らく大阪市さんの景観計画の中では、「まちなみ」という言葉が出てくるのは今回が

初めてだというのも実はすごく特徴的だと思っていまして、従前の御堂筋の景観誘導では「建築美観誘導」と呼んでいたはずですが。つまり建築美観誘導というのは単体の建築物をどう指導していくのという考え方に立っていて、群としての価値みたいなことはおこがましいとか、それを指導するというのはおこがましいみたいな考え方があったんですけど、今回はやっぱり地域の皆さんとも一緒にやるという中でまちなみを一緒につくっていくというような感じで、いよいよ「まちなみ」という言葉を使えるようになったというのは非常に大きな局面かなと思っています。それから、「官民共創」というキーワードも、やっぱり先ほど申し上げたとおり10年の蓄積の中でこういう言葉が使えるようになったというのも非常に大きいかなと思っています。

それと、今回道路の「みちガイドライン」とも一体的にやったというのも画期的で、これも建設局と計画調整局の仲がいい大阪市だからできることかなと思っています。本当にこれ、ばらばらにやっているところは結構あると思うんですけど、本当に一体的にやろうとしているところはなかなかない。そういう意味でも非常に特徴的だなというふうには思っています。従来、多分、建築指導行政と土木事業系は一緒にやらないことが多いんですけど、そこを一緒にやっているというのも特徴かなと思っています。

私からのお願いという意味では、先ほどもちょっと岡井先生からも出ましたが、ぜひ今後も、「まちなみ創造区域」そのものに入ってくるかどうかは私も微妙だとは思いますが、官民連携でいろいろやっていらっしゃる地区は結構あると思っています。例えばグランフロントだとか、あとは道修町だとか、あまり面として大きくはないかもしれないけど、いろいろやっていらっしゃる地区はありますよね。そういうのをマイクロな地区で景観の細かい取組を位置づけていくみたいな話が、大阪市でもそろそろやってもいいのかなという気もしています。だから、それは「まちなみ創造区域」とは呼ばない別の官民共創型の区域かもしれませんが、そういうこともお考えいただいたらいいかなと思いますし、あと例えば、梅田はちょっとまだいろんな再開発とかも動くので、なかなか今景観としてルールを決めていくのが難しい局面かもしれませんが、一定落ち着いてきたら、梅田は、例えばグランフロントのエリアなんかは独自でルールを持たれて運用されているというのもある。それはそれで運用は回っているんですけど、今、景観計画の中にはそれが反映されていないという関係性があるって、御堂筋と同じように一定定着してきたら景観計画に載せていくみたいな、そういうやり方を少し定着させていってもいいかなという気もいたしました。

いずれにしても、この頻度で改訂していただけると、次何するのという目玉を考えなあかんということもございますので、ぜひとも、今日いただいたいろんなご意見も含めて参考にしながら、ぜひ次の展開も。すごい頻度で改訂していく大阪市の景観計画という形でお願いできればなと思います。

ちなみに、今、御堂筋の道路空間再編は、心齋橋のディオール前の辺りは完成の断面がご覧になれますので、ぜひ心齋橋に行かれるときにはのぞいていただいたらと思いますし、先ほどご紹介いただいたイチョウのために、いろいろ実は地中の部分で細工しているというのも、今工事中だとしっかり見られるので、ぜひとも見ていただいたらと思います。

私からは以上です。

ほか何か言い残したこととかございませんか。よろしいですか。

○事務局（寺本）

計画調整局長の寺本でございます。

今、嘉名先生からご紹介もありましたように、10年前、ちょうど部長の立場でこのガイドラインを作らせていただきまして、作った当初は、取りあえずルールがないので別々でいきますと言ってこれを作らせていただきました。10年たちまして、今見られているガイドラインの後ろのほうに写真をふんだんに入れています。これができてきた成果でございまして、まさしくデザインガイドラインの協議の中でよいものとしてできてきたものがこれだけ積み上がってきております。これを広めていくというか、こういうものを作ってくださいということをどんどん世間に分かっていただくようなことで、今回これを改訂するというのも一つございました。本来でいうと、写真の撮り方というのはなかなか難しいなというのが正直なところですが、やっぱりこれはプロに頼むところは頼んだほうがいいのかというのは、これは今後また課題として中でやっていくんですけど、これだけ積み上がってきているということと、これを広めていって、これを実現してどんどん変わっていくと、よりよいまちに大阪はなっていくんだらうなという思いで進めているというのが今回のお話の発端の一つでございます。

それと、どうしても走りながらスタートを切りましたもので、景観法の立てつけと、それから要綱なりガイドラインでやっている立てつけが必ずしもリンクしない、包含できないという部分が見えてきたというのがありまして、今回の検討も令和4年のときからずっとしていただいているんですけど、1年数か月かかってやっと「まちなみ創造区域」という新たな区域設定という考えから、少し法から外れても読めるんだみたいのところまで今

回この景観計画で位置づけようという新たな試みかなと思っております。冒頭中嶋先生からありましたGXのような話は、これからどんどんあちこちで、景観以外にもいろんな課題というか方向性というのは示されると思うので、そんなものをこれから取り込めるかどうかも含めて頻度よく見直し、あるいは改訂みたいところで組み込んでいけたらなど、こんなふうに思っております。

何が何でもこれが一番だということではなくて、よりよいものはどんどん先進的に取り組むのが大阪市の市風だと思っていますので、今日いるメンバー含めてどんどん新しいものにチャレンジしたいなというふうに、今日お話を聞きながら感じたところがございます。また、建設局ともいろいろ調整しながらよりよい御堂筋にしていきたいと思っておりますし、また先ほど嘉名先生からもあったようにグランフロント、それから道修町、それ以外に先ほどご説明しましたなれば、これも自主ルールを地域の方が真剣に考えていただいておりますので、こういったものが実際行政の景観計画なりこういう計画にどう取り込めるかというのがこれから我々の課題かなと思っております。よりよいものはこれと別に、今日お示しできていませんが読本のほうにもどんどん事例がたまってきておりますので、こんなものも見ていただきながら、景観というのはこういうふうになるんだというところを見せていければなど、こんなふうにした次第ですので、委員の先生方につきましては引き続きご指導いただけたらと、思った次第でございます。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○嘉名委員長

ありがとうございました。

本日、いろんなご意見いただきました。事務局においてはこの意見を踏まえて今後の手続を進めていただくと。微修正、調整の部分あるかと思っておりますけれども、よろしく願いいたします。

それでは、議題の（２）のほうに移ってまいりたいと思っております。その他についてということで、事務局から説明をお願いします。

○事務局（相本）

それでは、議題（２）につきましてご説明させていただきます。

A4資料2の上段、1ページ目をご覧ください。昨年度3月13日に65回都市景観委員会を開催して以降のこれまでの各部会の開催状況についてご報告いたします。

デザイン部会は今年度4月及び7月の計2回開催し、大規模な面的整備に係る検討書に

ついてご審議いただきました。都市景観資源検討部会は、6月に現地調査、7月に会議を開催し、都市景観資源の新規登録に向けてご審議をいただきました。

続きまして、資料下段、2ページ目をご覧ください。今後の委員会及び部会の予定をご説明いたします。都市景観委員会につきましては、議題（1）でご説明させていただいた御堂筋の景観誘導についてに関する内容と、都市景観資源の登録についてに関する内容につきまして、今年度秋頃開催する予定でございます。デザイン部会につきましては、今月8月25日と来月9月29日に開催いたしまして、25日には大規模な面的整備に係る検討書に関する内容及びデジタルサイネージの実績報告をさせていただく予定です。9月29日には大規模な面的整備に係る検討書に関する内容についてご審議いただく予定でございます。

説明については以上でございます。よろしく申し上げます。

○嘉名委員長

各部会の開催状況及び今後の予定について説明ございました。ご意見、ご質問ございませんでしょうか。よろしいですか。引き続き部会も含めて盛りだくさんでございますので、委員の先生方、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、これで本日予定しておりました議事は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

○事務局（相本）

本日は貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。

これをもちまして、第66回大阪市都市景観委員会は閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

大阪市都市景観委員会委員

大阪市都市景観委員会委員